

24.9.27

次世代航空機研究で協力

金沢工大と東北大 石川を拠点に

金沢工業大学の材料システム研究所と航空システム工学研究所は26日、東北大学の次世代航空機研究センターと研究協力協定を結んだ。共同研究や人材交流を推進、金沢工大の両研究所が入る「やつかほりサーキヤンパス」(石川県白山市)を次世代航空機の世界的な研究拠点に育てる。

次世代航空機は燃費を向上させるため鉄よりも軽くて強度が大きい複合材を使うことが不可欠となつてきている。ただ価格が鉄よりも高くなるため、金沢工大と東北大は強度が大きく低コストの素材を共同で研究する。

金沢工大の材料システム研究所は米ボーイングの中型旅客機「787」に採用された炭素繊維強化プラスチック(CFRP)の耐久性などの研究で実績を持ち教員は7人。航空システム工学研究所は航空機のエンジンなど部品の設計や開発といった研究をしており、

教員9人が在籍する。東北大の次世代航空機研究センターは複合材を使う国産の次世代旅客機の開発に取り組んでいる。

24.9.27 北國新聞 地方社会

金沢工大と東北大航空機研究で協定

金沢工大の材料システム研究所と航空システム工学研究所は26日、東北大学次世代航空機研究センターと研究協力協定を締結した。共同研究や人材交流を進める。

材料システム研究所は航空機の機体に使われる炭素繊維強化プラスチックの耐久性や損傷許容性設計技術では世界的な研究実績を持ち、航空システム工学研究所は実用に近い航空機の研究、開発を進めている。

次世代航空機研究セ

ンターは国産の低ソニックブーム超音速旅客機を提案している。3研究機関は今後連携を強め、次世代航空機の世界的な研究拠点を目指すとしている。